

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類：	GI基金支援技術を活用した製品
	対象：	次世代蓄電池・次世代モーターの開発
b.	分類：	低炭素水素等
	対象：	水素

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	次世代蓄電池・次世代モーターの開発
対象行動	中間・最終製品製造
概要	<p>・製造販売する自動車用のインバータにおいて、出力密度を向上した小型軽量インバータを市場に投入することで、自動車の電費・燃費改善に寄与します [目標]2030年度, 出力密度: 25kw/kg</p> <p>・ただし、市場投入の時期や目標値は、社会的ニーズや自動車販売市場の動向に伴う自動車メーカーの開発スケジュール・仕様変更により、変わる可能性があります</p>

b.	水素
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	生産活動において、水素などのクリーンなエネルギーを利活用することでCO2の削減に取り組めます

3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4. 温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	次世代蓄電池・次世代モーターの開発
削減対象：	Scope 3
目標年度：	2030年度
基準年度：	2021年度
目標削減率：	25%
削減目標における選択対象の位置づけ：	<p>・当社グループ全体の2030年度Scope 3排出削減目標値25% (2021年度比)に対し、本製品の量産化により、Scope3カテゴリ-1およびカテゴリ-11の削減に寄与します</p> <p>・ただし、市場投入の時期や目標値は、社会的ニーズや自動車販売市場の動向に伴う自動車メーカーの開発スケジュール・仕様変更により、変わる可能性があります</p>

b.	水素
削減対象：	Scope 1 + 2
目標年度：	2030年度
基準年度：	2021年度
目標削減率：	80%
削減目標における選択対象の位置づけ：	<p>・当社グループ全体の生産活動における2030年度Scope 1, 2排出削減目標値80% (2021年度比)に対し、水素などのクリーンなエネルギーを利活用することで削減に取り組めます</p> <p>・ただし、現時点で2030年断面における社会普及が不透明なため、2030年以降の量産化に向けた実証実験に必要な量を調達し準備を進めます</p>

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	次世代蓄電池・次世代モーターの開発
目標年度：	2030年度
定量的目標：	
選択対象に関する定量的目標の概要：	

b.	水素
目標年度：	2030年度
定量的目標：	100m3

<p>選択対象に関する定量的目標の概要：</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水素などのクリーンなエネルギーを利活用することで、更なるScope 1, 2の削減に取り組めます ・ただし、現時点で2030年断面における社会普及が不透明なため、2030年以降の量産化に向けた実証実験に必要な量を調達し準備を進めます ・上述の定量的目標は小型炉の実証実験などを想定しており、現在の1回当たりの使用量を目安に記述しています
--------------------------	---

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲：	自社単体
-------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

(日付) 2024年12月17日

日立 A s t e m o 株式会社
代表取締役 社長&CEO 竹内 弘平